

○栃木市の文化

和歌によまれた栃木市

室の八島・しめちが原・伊吹山を詠んだ歌はおおく、ここにあげたのはその一部です。
(「都賀町史・歴史編」より)

「おくの細道」

松尾芭蕉について

寛永 21 年 (1644 年) - 元禄 7 年 10 月 12 日 (1694 年 11 月 28 日) は、江戸時代前期の俳諧師。現在の三重県伊賀市出身。

芭蕉が弟子の河合曾良を伴い、元禄 2 年 3 月 27 日 (1689 年 5 月 16 日) に江戸を立ち東北、北陸を巡り岐阜の大垣まで旅した紀行文が、『おくのほそ道』であり、栃木市の「室の八島」にも立ち寄っています。

「室の八島」参詣 (元禄 2 年 3 月 29 日)

室の八島に詣す。同行曾良が曰、「此神は木の花さくや姫の神と申て富士一躰也。無戸室に入て焼給ふちかひのみ中に、火々出見のみこと生れ給ひしより室の八島と申。又煙を讀習し侍もこの謂也」。将、このしろといふ魚を禁ず。縁起の旨世に伝ふ事侍し。

○糸遊に結びつきたるけふりかな

の句をのこしています。